

『人間関係研究』第25号の刊行にあたって

今年の夏は、厳しいにもほどがある...と言いたくなる程の暑さでした。みなさま、お変わりなくお過ごしでしょうか。秋風が心地よい毎日となりましたが、夏の疲れが一気にやってくる頃かもしれません。どうかくれぐれもご自愛くださいませ。

さて、南山大学人間関係研究センターは、今年、設立25周年を迎えることができました。まずは、ここまで人間関係研究センターの営みを支えてくださった方々へ、また、このセンターを創りあげてくださった先人のお一人おひとりへ、心からの感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

去る7月5日には、センター設立25周年と、昨年刊行した『人間関係の学び方』の出版をお祝いし、南山大学にて記念イベントを開催いたしました。当日は36℃を超える暑さでしたが、そんなことも顧みぬ多くの方が、各地よりお集まりくださいました。イベントの中では、様々な形で、南山大学人間関係研究センターのこれまでとこれからに思いを馳せながら、みなさまとわかちあう時を過ごすことができました。

その一つは、「教育の冒険と人間関係の学び方：南山大学人間関係研究センター25年の軌跡とこれから」と題した全体会（座談会）でした。元センター員であり南山大学名誉教授のグラバア俊子先生をお迎えしてこの座談会を開催できたことは、本当に大きなよこびだったと感じています。長きに渡ってラボラトリー方式の体験学習と共に歩んでこられたグラバア先生のお話は、“25年の軌跡”を大きく超えた時間と空間の繋がりの中で、この学びが紡がれてきたことを実感するものでした。この全体会（座談会）の内容は、本紀要の特集記事として掲載されております。ぜひご一読いただき、ラボラトリー方式の体験学習という学び方を通して生まれた様々な「教育の冒険」の軌跡と、そこで脈々と受け継がれてきたこと・大切にされてきたことについて、じっくりと味わっていただければ幸いです。

本号にはこの他にも、研究員による論文等と、昨年度に開催した公開講演会の記録を掲載することができました。講演者の御代田太一さんには、『「よるべない100人のそばに居る。」：救護施設での出会いと人間関係』というテーマでお話いただきました。一般的にあまり知られていないという救護施設の存在や役割の重要性が、御代田さんの温かな語りを通して豊かに伝わってくるご講演でした。講演録に触れていただくと、御代田さんのご著書も読んでみたい！というお気持ちが湧いてくるのではないかと思います。ぜひご覧ください。

本号もまた、本センターのミッションである、多様なあり方を尊重すること、また、人間性豊かな社会の実現に少しでも貢献できることを願いながら、みなさまのもとへお届けいたします。

南山大学人間関係研究センター長 中 尾 陽 子